

令和4年9月24日

宮崎県議会総務政策委員会  
太田清海 殿

日向市浜町3丁目29番地  
黒木紹光

県政再生協力をお願い

謹啓 時下益々ご清栄のこととお喜び申し上げます。

昨年12月21日、貴殿は、富井市議会議員と共に突然私を訪れました。1時間以上に渡る会話の中で、貴殿は、決定的なウソをつきました。

私が、「2019年7月12日に太田さんが県税事務所職員と面談した際に、県税事務所職員が「たいした脱税額でもないんですよ。」と言い、太田さんは、それをAさんに報告していますよね。」と言うと、「私は、わかりません。記憶がありません。それは、Aさんの言葉ですよ。私は、記憶がありません。大した額ではないと言ったら問題ですよ。県からは、問題ないですという感じで聞きました。」

さて、貴殿は、「記憶がありません。それは、Aさんの言葉ですよ。」と言いました。しかし、「たいした脱税額でもないんですよ。」というフレーズは、衝撃的な言葉であり、そのような衝撃的な言葉を忘れる筈はありません。また、A氏は、その日、貴殿から聞いた直後に私に電話でその衝撃的な言葉を報告しています。A氏は、私だけではなく、他の者にも同様に報告しています。私は、A氏から報告を受けたことをよく覚えています。そして私は、この言葉によって、県の犯罪もみ消しを確信しました。

貴殿は、「Aさんの言葉ですよ。」と言って、A氏のつくり話かのように言っていますが、A氏が聞いてもいない言葉を創作して私を含め、複数の人間に報告する筈がありません。貴殿の「記憶がありません。」はウソです。

貴殿は、県議会議員及び県議会総務政策委員会委員でありながら、この県税脱税という大事件の解決に取り組まずに3年以上放置し続けてきたばかりか、解決のための極めて重要な記録に関してウソをつくといふとんでもない背任行為をしたことになります。

私は、本件問題は、県とコーソクの癒着問題であると捉えていますが、この構図の中で最も責任があるのは、県議会議員です。(県警は権力者の犬ですから、ここでは脇に置きます。)その最も重い責任を担うべき貴殿ら県議会議員が、解決に取り組

むどころか、解決の障害となるウソの証言をして不正の隠蔽に加担するということは、選んでくれた延岡市民に対する背任になります。

ご存知のように、コーソクに関わる諸問題は留まるどころを知らず、労働基準法違反によるサービス残業及びパワハラ、産業廃棄物不法投棄による環境破壊、違法開発に伴う土地の収奪及び自然災害危険性増大、さらには、従業員の覚醒剤蔓延に及ぶなど、まさに地獄絵に等しい状態を招いています。放置すればまださらに酷いことになります。

したがって、直ちに宮崎県の法秩序を回復し、宮崎の社会の健全性と安心安全な県民生活を守ると共に、コロナ禍で疲弊した県経済の復活を図らねばなりません。私は、終始一貫、法秩序の回復なしに宮崎県政の再生は叶わないと考え、悪の追放を目指して活動してきました。しかし、そこに立ち塞がったのは、県警と検察であり、県民の味方であるはずの貴殿ら県議会議員でした。当然ながら、県政の再生に取り組んできた私は、予想外の敵に苦しまなければなりませんでした。

さて、県知事選挙が近づいています。私は、この機会を逃したら、県政の再生という課題は、何らの解決もできずに悪がはびこり続け、宮崎にとどめを刺すと認識しています。つまり、今しか解決のチャンスはありません。解決のためには、貴殿ら県議会議員が、保身などという卑しい了見を捨てて、権力に立ち向かわねばなりません。

そこで、2019年7月12日に貴殿が県職員と面談した一部始終を、正確に証言して頂く必要があります。場所、4名の職員の肩書と氏名、面談内容の全容と、「たいした脱税額でもないんですよ。」と言った職員の氏名とそれを含む前後の会話内容です。今貴殿がすべきことは、県知事や県職員を庇うことではなく、県政の再生に尽力して宮崎県民を救うことです。

これを文書（署名もしくは記名押印付き）にして、9月30日までに、私に郵送で送ってください。もし、貴殿が隠蔽を図る、もしくはウソを言い続けるようであれば、私は、不本意にも貴殿の責任を追及せざるを得ません。延岡市民は全員、貴殿の虚偽証言を知ることとなります。

私は、検察と通じていますので、後は、私の方で何とかします。念を押しますが、私の目的は、県政の立て直しです。腐敗を一掃し、立て直さなければ、県民を救う仕事はできません。何卒よろしくお願い申し上げます。

敬白